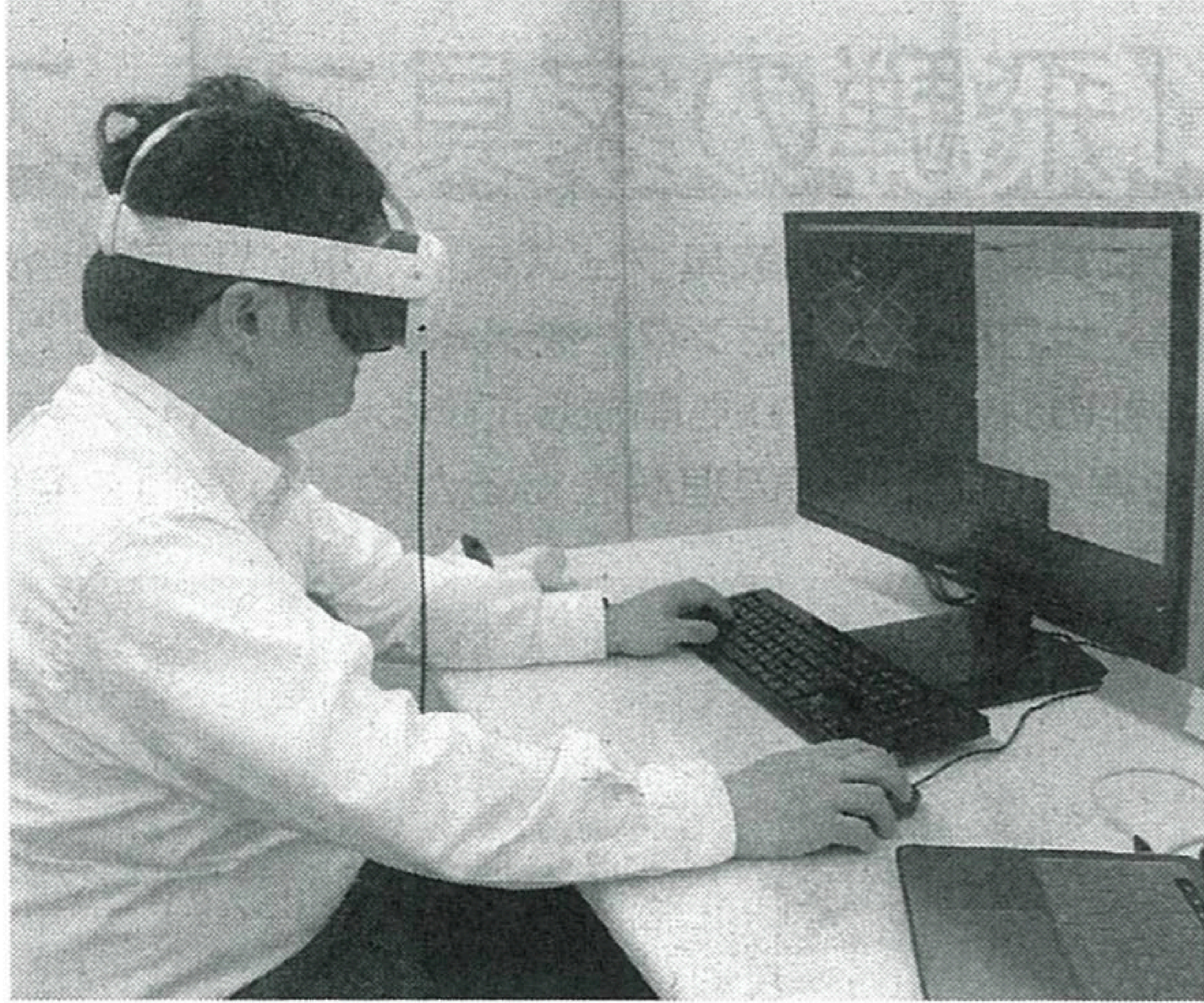


# ヒト型ロボット向け エンジニア育成



VRゴーグルなどを使用して学習する

## 導入支援から保守まで

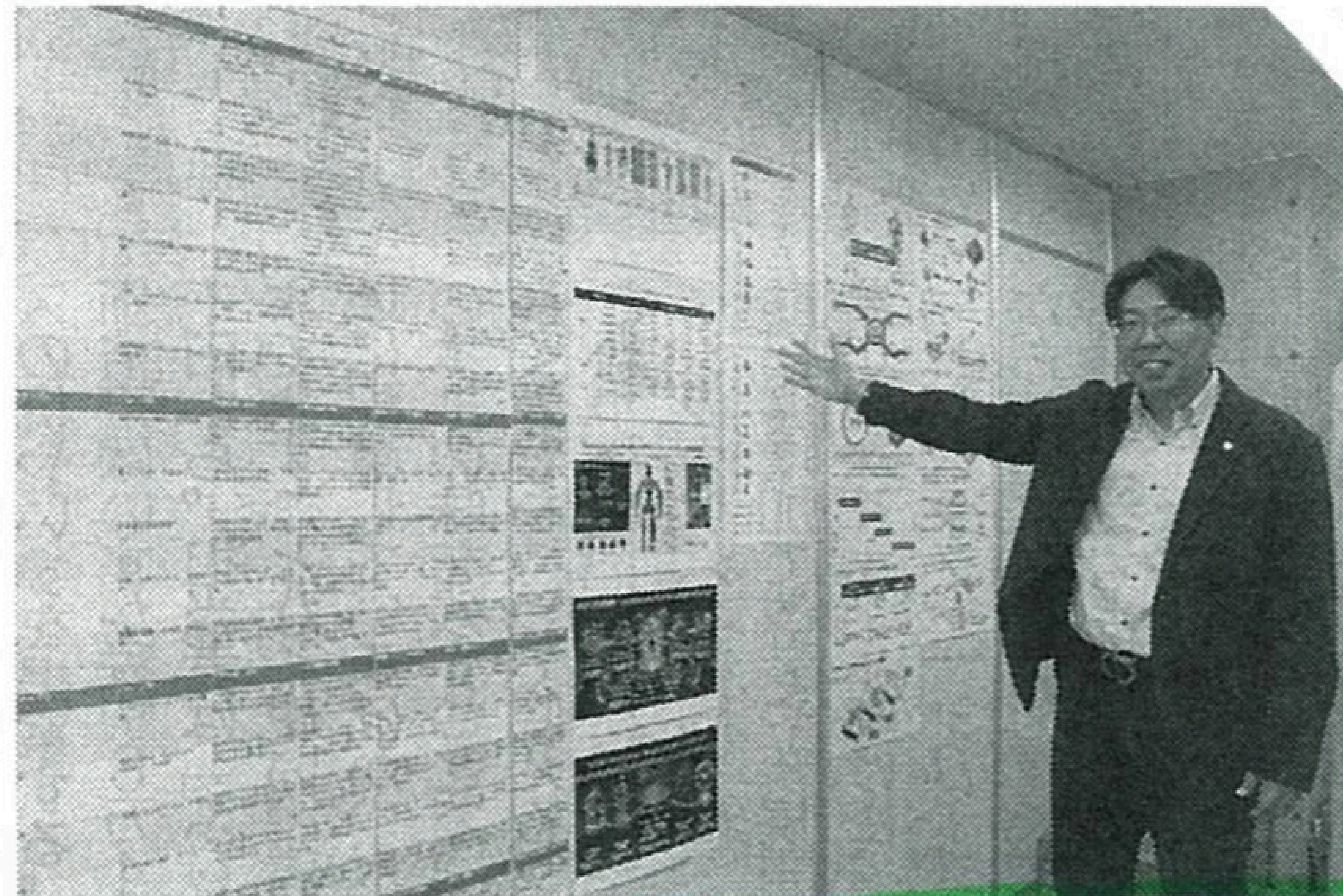
### 日輪HD

人材派遣業の日輪などを傘下に持つ日輪ホールディングス(HD、本社刈谷市昭和町2の37、中山裕社長、電話0566・70・7388)は、ヒューマノイド(ヒト型ロボット)を動かすエンジニアの育成に乗り出した。導入支援から保守人員の育成まで体系化した教育システムを構築。まずは日輪グループ内で初年度に10人のエンジニアを育成する。製造業や物流業などで需要拡大が予想されるヒューマノイドの社会実装を支援する。  
(刈谷・山田悠)

新事業は、日輪HD、日輪技術本部、ピースワンの日輪グループ3社が連携して取り組む。足元ではヒューマノイドの開発競争が激しくなっている。どのロボットが台頭しても対応できる人材を育てる。

教育内容は①自然言語による指示②VR(仮想現実)コントローラーによる直感操作③ロボットカメラによる視認④製品データベースとの連携などを組み合わせる。現実世界を仮想空間で再現する「デジタルツイン環境」による模倣学習などを通じて、動作を最適化する。

5月にキックオフミーティングを開催し、まずは3人の育成に乗り出した。1日4〜5時間、既存業務と並行しながら学び、3カ月程度で終了する計画。初年度に合計10人の「ヒューマノイドオペレーションエンジニア」を育成する。



学習の目的や操作手順などを紹介する担当者

人手不足によって製造や物流現場などでヒューマノイドの導入拡大が見込まれている。日輪HDは、ロボットを導入後、活用などで

試行錯誤する企業が増える」とみている。中山伊知郎会長は「この1年でヒューマノイドを巡る動きは大きく変化すると思う。(現場でうまく活用するには)オペレーションができるエンジニアが必須となる。どのヒューマノイドが先行しても対応できる人材を育成し、製造業を支援したい」と話している。

同社は2019年設立。グループ会社を通じ、人材ソリューションや航空宇宙・防衛ソリューション事業などを手掛ける。2026年4月期のグループ売上高は162億8100万円。